

夏期テキスト

必修編

# 国語

中学 **2** 年

古文の知識や  
送りかな等の問題集

中2国語 | 中学夏期テキスト[必修編]

確認問題

● 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

ある人、下人に、「内裏ちまきを買ふてまぬれ」といひつけたれば、「心得申す。」とて内裏様へ参り、御門番の御前うちあけ、「ちまき買はふ。」といふ。番衆おかしく思ひて、「いか程にて買ふぞ。」と問へば、「百文にて。」といふ。御番の人々申さるるは、「これは内裏ちまきとて、一貫文より下にては売らぬぞ。」といへば、「げにも、此家づくりのていにては、さうあらふ事なり。」とて、宿へ帰り、しかしかといふた。物ごとに不案内にては、恥をかくなき事なり。 (「きのふはけふの物語」より)

- (注) 下人 身分の低い召し使い。
内裏ちまき もち米などで作ったもちを、長円すい形にかためて、笹などで包んだもの。
心得申す 承知しました。
内裏様 皇居。
御門番の御前うちあけ 門番の小屋の前の扉を開けて。
番衆 門番の人々。
申さるる 申し上げなさる。
一貫文 一貫文。
げにも、此家づくりのていにては、さうあらふ事なり なるほど、この立派な家の構えでは、それももつともなことだ。
しかしか これこれ。
不案内にては 勝手がわからなくては。

問1 仮名遣い — 線①「まぬれ」、線②「思ひて」を、現代仮名遣いに直して書きなさい。

① ( ) ② ( )

問2 古語の意味 — 線③「いか程」の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア どれくらいの量 イ どれくらいの時間
ウ どれくらいの値段 エ どれくらいの身分

問3 主語 — 線④「百文にて」と言ったのは誰ですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ある人 イ 下人
ウ 番衆 エ 内裏様

問4 内容理解 — 線⑤「さうあらふ事なり」とありますが、下人はどのように言われたことに対して納得したのですか。古文中から十二字で抜き出さない。

Blank box for answer to Question 4.

問5 内容理解 この話のおもしろさとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 主人が下人に無理な注文をしたところ。
イ 下人がちまきを内裏様に買いに行ったところ。
ウ 下人がちまきを安値で買おうとしたところ。
エ 門番がちまきを売ろうとしなかったところ。

要点のまとめ

1 古文の仮名遣い：歴史的仮名遣い・歴史的仮名遣いのルール

- ① る・ゑ・を ↓ い・え・お
② ぢ・づ ↓ じ・ず

③ 語頭以外のは行 (は・ひ・ふ・へ・ほ) ↓ わ・い・う・え・お

④ ア段+う ↓ 才段+う
例 かうじ ↓ こうじ (柑子)

⑤ イ段+う ↓ イ段+ゆ+う
例 きうと ↓ きゆうと (旧都)

⑥ エ段+う (ふ) ↓ イ段+よ+う
例 けふ ↓ きょう (今日)

⑦ む ↓ ん

2 古語：現代語にない語や、現代語とは異なる意味で使われる語がある。

例 うつくし かわいらしい

3 古文の表現の特徴：主語・述語・助詞などの省略がある。

例 ある人、下人に：ある人が、下人に：(助詞の省略)

基本問題

◆◇ 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

伊與入道は、おさなくより絵をよく書侍けり。父うけぬ事になん  
 ① 思へりけり。無下に幼少の時、父の家の中門の廊の壁に、かはらけ  
 のわれにて、不動の立給へるを書たりけるを、客人たれとかや慥に  
 聞きを忘にけり、これをみて、<sup>③</sup>「たが書きて候にか」と、おどろき  
 たるけしきにてとひければ、あるじうちわらひて、「これはまこと  
 しき物、かきたるには候はず。愚息の小童が書て候」といはれけれ  
 ば、いよいよ尋て、<sup>④</sup>「然るべき天骨とはこれを申候ぞ。此事制し給  
 事あるまじく候」となんいひける。げにもよく絵みしりたる人なる  
 べし。

〔古今著聞集〕より

(注) 伊與入道 人物の名前。

うけぬ 賛成できない。承知できない。

無下に すすかり。

かはらけ 土器。

不動 不動明王。

たれとかや 誰とかいうか。

けしき 表情。態度。

まことしき物 しかるべき者。れつきとした人。

愚息 自分の息子をへりくだってという言葉。

然るべき 立派な。申し分のない。

天骨 生まれつき備わっている才能。

問1 仮名遣い —— 線①「思へりけり」、—— 線②「かはらけ」を現代仮名  
 遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

① ( ) ② ( )

問2 主語・内容理解・古語の意味 —— 線③「たが書きて候にか」について、  
 次の各問いに答えなさい。

(1) このように言ったのは誰ですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 幼い頃の伊與入道    イ 伊與入道の父  
 ウ 客人    エ 愚息の小童

(2) 何を書いた絵を見てこのように言ったのですか。古文中から七字で抜き  
 出しなさい。

(3) 「たが書きて候にか」の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア しかし、よく書けていることだな。  
 イ どのように書いたのか不思議だ。  
 ウ きつと大人が書いたのでしょうか。

- エ 誰が書いたのをごぞいますか。

問3 内容理解 —— 線④「然るべき天骨」とは、誰のどんな才能のことですか。  
 最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 父の書道の才能。    イ 幼い頃の伊與入道の絵を書く才能。

- ウ 客人の絵を鑑定する才能。    エ しかるべき者の絵を教える才能。

問4 主題 この文章で筆者は何を中心述べていると述べていますか。最も適切  
 なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ある絵書きの、幼い頃から絵書きとして大成するまでの出来事と体験。

イ 絵が上手な自分の息子を自慢し、将来に期待を寄せている父の姿。

ウ 大人の書いた絵にはない、子供の書いた絵の純粹で素直な美しさ。

エ 幼い子の書いた絵を見て、その絵の才能を見抜いた人物への賞賛。

演習問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

ある川のほとりに、牛一匹、ここかしこへ<sup>①</sup>ゑじきを求め<sup>あり</sup>歩きはべ

(かえる)

(ふくらましたら)

りしに、かいるこれを見て心に思ふやう、「わが身をふくらしなば、

(必ずや)

(なることだろ)

(きつと)

必ずもやあの牛のせいほどなりなん」と思ひて、きつと伸びあがり、

(大きさを)

身の皮をふくらして、子どもにもむかつて、「今はこの牛のせいほど

(に)

になりけるや」とたづねければ、子どもあざ笑ひていはく、いまだ

そのくらゐなし。

(申しにくいことですが、あなたは牛に似ていらつしやいませ)

はばかりながら、御辺は牛に似たりたまはず。ま

(かぶの形)

さしくかぶらのなりにこそ見えはべりけれ。御皮の縮みたるどころ

(ございますので)

(おふくれになったなら)

はべるほどに、いま少しふくれさせたまはば、あの牛のせいになり

(言うには)

たまひなんと申しければ、かいる答へて申さく、「それこそいとや

単なことだよ)

(力のかぎり)

すきことなれ」といひて、力およびえいやつと身をふくらしければ、

思ひの外に皮俄かに破れて、腸出でて空しくなりにけり。そのごと

(自分の望み)

く、およばざる才智を望む人は望むことを得ず、つひにおのれが

が原因で)

思ひゆゑに、かへつてわが身をほろぼすことあるなり。

〔伊曾保物語〕より〕

問1 仮名遣い — 線①「ゑじき」、— 線②「思ふやう」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

① ( ) ② ( )

問2 内容理解 — 線③「きつと伸びあがり、身の皮をふくらして」とあり

ますが、かえるはこのようにして、(1)何のようになりたいと思つたのですか。また、(2)実際は何のようになってしまったのですか。それぞれ、古文中の単語で答えなさい。

(1) ( ) (2) ( )

問3 会話文 — 線④「子ども」の会話部分の初めと終わりの五字を抜き出さなさい。

Empty boxes for question 3.

問4 古語の意味 — 線⑤「空しくなりにけり」とはどうなったという意味ですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 縮んでしまった イ 逃げ出してしまった  
ウ 死んでしまった エ 気抜けしてしまつた

問5 内容理解 この文章を二つに分けるとすると、後半はどこからですか。後半の初めの五字を古文中から抜き出さなさい。

Empty boxes for question 5.

問6 主題 この文章で筆者は何を述べようとしていますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 能力や立場をわきまえずに行動すると、取り返しをつかえないことになる。  
イ 他人の忠告を素直に聞き入れないと、元も子もなくなってしまつてしまふ。  
ウ 仲のよい者どうしでも、協力して物事を進めないと失敗する。  
エ 人を思いやる心をもたないと、思いがけない災難に遭ふ。

Empty box for question 6.

2 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

\*さしたることなくして人のがりゆくは、よからぬことなり。用ありて行きたりとも、そのことはてなば、とく帰るべし。久しく居たる、いとむつかし。

人とむかひたれば、詞多く、身も草臥れ、心も閑かならず、萬のことはりて時をうつす、たがひのため益なし。いとほしげにいはむもわろし。心づきなきことあらむ折は、なかなかそのよしをいひてむ。<sup>④</sup>おなじ心にむかはまほしく思はむ人の、つれづれにて、今しばし。<sup>⑤</sup>けふは、心閑かに、などいはむは、この限にはあらざるべし。阮籍が青き眼、誰もあるべきことなり。

そのこととなきに人の来りて、のどかに物語して帰りぬる、いとよし。また文も、<sup>⑥</sup>「久しく聞えさせねば」などばかりいひおこせたる、いとうれし。

(注) さしたることこれといった用事。

はてなば終わつたならば。

萬のことはりて萬事にさしわりができて。

いとほしげにいはむ嫌そうに話す。

心づきなきことあらむ折は氣に入らないようなことがある場合は。

なかなかかえつて。

おなじ心にむかはまほしく思はむ人氣心が合つて対座したいと思われるよう

な人。

つれづれにて退屈で。

この限にはあらざるべし例外としてよいであろう。

阮籍は中国の晋の人で、竹林の七賢とよばれる隠者の一人。阮籍は、氣に入

た客は青い眼で迎え、氣に入らない客は白い眼で迎えたという。

久しく聞えさせねば長らくご挨拶をしていないので。

問1 古語の意味 — 線①「いとむつかし」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大変わかりにくい
- イ 少しでもわかりにくい
- ウ 大変わずらわしい
- エ 少しでもわずらわしい

問2 仮名遣い — 線②「いはむ」、線③「よし」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ② ( )
- ③ ( )
- ④ ( )
- ⑤ ( )

問3 古語の意味 — 線④「おなじ心にむかはまほしく思はむ人」とありますが、この人の会話部分を抜き出し、初めと終わりの四字を書きなさい。(句読点を含みません)

- ア 由緒
- イ わけ
- ウ 手段
- エ はぐれたこと

問4 会話文 — 線④「おなじ心にむかはまほしく思はむ人」とありますが、この人の会話部分を抜き出し、初めと終わりの四字を書きなさい。(句読点を含みません)

--	--

問5 古典常識 — 線⑥「文」の読みを平仮名で書きなさい。

( )

問6 主題 この文章の内容に当てはまらないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人の家を訪ねたときは、用事が済んだら長居をせず早く帰るのがよい。
- イ 氣に入らないことがあっても、嫌そうに話をしてはいけない。
- ウ 親しい人であっても、これといった用事がなくて来られるのは迷惑だ。
- エ ちょっとした挨拶だけが書かれた手紙を、親しい人からもらうのはうれしいことだ。



言語

1

漢字の成り立ち・部首

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 柳の枝が揺れる。
- ② 小舟に乗る。
- ③ 魔法をかける。
- ④ 本に啓発される。
- ⑤ 業務を委嘱する。
- ⑥ お寺に詣でる。
- ⑦ 土砂が堆積する。
- ⑧ 職権の濫用。
- ⑨ 強情を張る。
- ⑩ 自然淘汰される。
- ⑪ ベルサイユ宮殿。
- ⑫ 請求書を受け取る。
- ⑬ スペインの無敵艦隊。
- ⑭ 芸能人に憧れる。
- ⑮ 毎年恒例の行事。
- ⑯ 新しい職に就く。
- ⑰ 小間物を商う。
- ⑱ 師弟関係にある。
- ⑲ 仮病を使う。
- ⑳ 骨髄を移植する。
- ㉑ トツゼンの訪問。
- ㉒ 視野がセマイ。
- ㉓ ダキヨウを許さない。
- ㉔ ヒレツな行い。
- ㉕ 大都会のカタスミ。
- ㉖ チツジョを守る。
- ㉗ 党がブンレツする。
- ㉘ 二国間のコウショウ。
- ㉙ 母の味がコイシイ。
- ㉚ ヘイボンな記録。

1 漢字の成り立ち 次の漢字の成り立ちを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 上
- ② 子
- ③ 消
- ④ 鳴

ア 象形文字    イ 指事文字    ウ 会意文字    エ 形声文字

2 部首 次の漢字の部首の名前を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 盆
- ② 郎
- ③ 近
- ④ 被
- ⑤ 尾
- ⑥ 雲

ア おおざと    イ こざとへん    ウ しかばね  
 エ しんによう    オ さら    カ あめかんむり  
 キ しめすへん    ク ころもへん

3 部首 次のうち、他とは部首が異なる漢字を一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ア 傷    イ 優    ウ 僧    エ 微
- ② ア 冷    イ 汗    ウ 淡    エ 浸
- ③ ア 庭    イ 厚    ウ 度    エ 庫
- ④ ア 胸    イ 脱    ウ 服    エ 腹

言語 2 熟語の構成

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 切手を貼付する。
- ② 阪神方面に行く。
- ③ 指導要綱をまとめる。
- ④ 神経が摩滅する。
- ⑤ 敵を一蹴する。
- ⑥ 炭坑で働く。
- ⑦ 菊の花を観賞する。
- ⑧ 海藻を食べる。
- ⑨ 汗を分泌する。
- ⑩ 弟妹の世話をする。
- ⑪ 国境を侵す。
- ⑫ 静かに拝聴する。
- ⑬ 燃焼実験を行う。
- ⑭ 慶賀に堪えない。
- ⑮ 気持ちが萎縮する。
- ⑯ 高僧の説法。
- ⑰ 近郷から人が集まる。
- ⑱ 又聞きの話。
- ⑲ 裁判官の弾劾。
- ⑳ 葬式を執り行う。
- ㉑ 発言をテイセイする。
- ㉒ 木造建築のケツサク。
- ㉓ ニチボツの時刻。
- ㉔ コドクを感じる。
- ㉕ 写真のサツエイ。
- ㉖ 管理職にツケル。
- ㉗ 理論をジツセンする。
- ㉘ ナンシキの野球。
- ㉙ 母方のシンセキ。
- ㉚ 本をヘンキヤクする。

1 熟語の構成 次の熟語の構成を説明したものととして適切なものを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 急用
- ② 着々
- ③ 町立
- ④ 高低
- ⑤ 不動
- ⑥ 救助
- ⑦ 入試
- ⑧ 防火
- ア 意味の似た漢字を並べたもの
- イ 反対の意味の漢字を並べたもの
- ウ 上の漢字が下の漢字を修飾するもの
- エ 下の漢字が上の漢字の目的・対象を示すもの
- オ 上の漢字と下の漢字が主語と述語の関係にあるもの
- カ 打ち消しの接頭語が付くもの
- キ 同じ漢字を重ねたもの
- ク 三字以上の熟語が省略されたもの

①	<input type="checkbox"/>	②	<input type="checkbox"/>
③	<input type="checkbox"/>	④	<input type="checkbox"/>
⑤	<input type="checkbox"/>	⑥	<input type="checkbox"/>
⑦	<input type="checkbox"/>	⑧	<input type="checkbox"/>

2 熟語の構成 次の熟語と同じ構成の熟語を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 予測
- ② 表現
- ③ 帰宅
- ④ 前後
- ア 未知
- ア 民営
- ア 着地
- ア 録音
- イ 高校
- イ 往復
- イ 行進
- イ 新旧
- ウ 最新
- ウ 作曲
- ウ 新緑
- ウ 非情
- エ 頭痛
- エ 運送
- エ 無害
- エ 残雪

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

言語 3

同じ音・同じ訓をもつ漢字

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 五つの母音。
- ② 猫が木に登る。
- ③ 潰滅的な被害。
- ④ 聞くに堪えない。
- ⑤ 蛍雪の功。
- ⑥ 謙虚な態度。
- ⑦ ノートに書き殴る。
- ⑧ 杯を交わす。
- ⑨ 邸宅を構える。
- ⑩ 健やかに育つ。
- ⑪ 生徒を引率する。
- ⑫ 放送倫理を守る。
- ⑬ 無邪気に笑う。
- ⑭ 災いを避ける。
- ⑮ 俊足の選手。
- ⑯ 退路を断つ。
- ⑰ 異臭の原因を探る。
- ⑱ 洞窟を探検する。
- ⑲ 祖父に一喝される。
- ⑳ 法律の形骸化を防ぐ。
- ㉑ シツドが高い部屋。
- ㉒ 海にモグル。
- ㉓ キョウコウな姿勢。
- ㉔ センタクシがない。
- ㉕ 義務をスイコウする。
- ㉖ 自動車のメンキョ。
- ㉗ 決勝戦をキケンする。
- ㉘ 決勝戦をキケンする。
- ㉙ 友人をナグサメル。
- ㉚ 医師がシンサツする。
- ㉛ ロウヒをつつしむ。

1 同音異字 次の□に当てはまる漢字を書きなさい。

①

B	A
数学の成	円柱の体
□ せき	□ せき

②

B	A
□ てき	□ てき
意をあらわにする。	切な処置。

2 同訓異字 次の□に当てはまる漢字を書きなさい。

①

C	B	A
□ あつ	□ あつ	今日は
□ い	□ い	□ あつ
コート。	お茶。	い。

②

C	B	A
机を前に	鏡に全身を	詩をノートに
□ うつ	□ うつ	□ うつ
す。	す。	す。

3 同音異義語 次の□に当てはまる漢字を書きなさい。

①

C	B	A
病状が	人質を	窓を
□ かい	□ かい	□ かい
□ ほう	□ ほう	□ ほう
に向かう。	する。	する。

②

C	B	A
□ き	夏休みに	通行を
□ せい	□ き	□ き
をそがれる。	□ せい	□ せい
	する。	する。

言語 4 送り仮名

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 人の気持ちに鈍感だ。
- ② 東京湾にすむ魚。
- ③ 胃炎の薬を飲む。
- ④ 租税を負担する。
- ⑤ 新聞に寄稿する。
- ⑥ 海賊を退治する。
- ⑦ 室内を装飾する。
- ⑧ 藤の花を観賞する。
- ⑨ 郊外の住宅地。
- ⑩ 猫に餌をやる。
- ⑪ 可能性を秘める。
- ⑫ 天国と地獄。
- ⑬ 承諾を得る。
- ⑭ 沸点に達する。
- ⑮ 慶弔が重なる。
- ⑯ 国の諮問機関。
- ⑰ 過剰に反応する。
- ⑱ 日本の名峰。
- ⑲ 仕事を委託する。
- ⑳ 作家が逝去する。
- ㉑ カミナリが落ちる。
- ㉒ 条約をテイケツする。
- ㉓ 水にヒタス。
- ㉔ カンダイな措置。
- ㉕ 庭にシモが降りる。
- ㉖ コウカイ先に立たず。
- ㉗ 責任感のケツジヨ。
- ㉘ コウズイに備える。
- ㉙ 白菜を一晩ツケル。

1 送り仮名 次のうち、送り仮名のつけ方の正しいものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ア 補う  
イ 補なう  
ウ 補ぎなう
- ② ア 危い  
イ 危ない  
ウ 危ぶない
- ③ ア 幼い  
イ 幼ない  
ウ 幼さない
- ④ ア 退る  
イ 退ける  
ウ 退ぞける

2 送り仮名 次の——線部を、漢字と送り仮名で書きなさい。

- ① サルが作物をあらす。
- ② 弟の部屋はいつもきたない。
- ③ 今日は朝からいそがしい。
- ④ やわらかなタオルで体を拭く。
- ⑤ 逃げ出した犬をつかまえる。
- ⑥ 冬のために薪をたくわえる。
- ⑦ おそろしい話を聞く。
- ⑧ 損害をつくなう。

言語

5

類義語・対義語

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 自我に目覚める。
- ② 目の敵にする。
- ③ 類出する単語。
- ④ 美観を損なう看板。
- ⑤ 意見が衝突する。
- ⑥ 体裁を気にする。
- ⑦ 革製品を売る店。
- ⑧ カキを養殖する。
- ⑨ 五キログラムの金塊。
- ⑩ 漆黒の暗闇。
- ⑪ 手綱をゆるめる。
- ⑫ 争いを傍観する。
- ⑬ 河川の改修工事。
- ⑭ 重厚な建物。
- ⑮ 鋳物を造る。
- ⑯ 質屋を営む。
- ⑰ 仕事が滞る。
- ⑱ 来る十日に式を行う。
- ⑲ デザインが廃れる。
- ⑳ 歩合を決める。
- ㉑ 丁寧にアツカウ。
- ㉒ 雨にケムル港。
- ㉓ ふとんをシク。
- ㉔ イッセイに走る。
- ㉕ 父のネンレイ。
- ㉖ ヒアイに満ちた表情。
- ㉗ 魚を五匹ツル。
- ㉘ 息がツマル。
- ㉙ 床屋でサンパツする。
- ㉚ 氷の塊をクダク。

1 類義語

次の言葉の類義語を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 安全
- ② 境遇
- ③ 突然
- ④ 長所
- ⑤ 落胆
- ⑥ 有名
- ⑦ 不満
- ⑧ 批評
- ア 失望
- イ 環境
- ウ 批判
- エ 欠点
- オ 不意
- カ 無事
- キ 不眠
- ク 危険
- ケ 美点
- コ 高名

⑤	①
⑥	②
⑦	③
⑧	④

2 対義語

次の言葉の対義語になるように、□に当てはまる漢字を書きなさい。

- ① 最高 ↓ 最□
- ② 悪意 ↓ □
- ③ 仮設 ↓ □
- ④ 肯定 ↓ □
- ⑤ 黙読 ↓ □
- ⑥ 偶数 ↓ □
- ⑦ 読 ↓ □
- ⑧ 設 ↓ □
- ⑨ 意 ↓ □
- ⑩ 数 ↓ □

3 対義語

次の言葉の対義語を、漢字二字で書きなさい。

- ① 前進 ↓ □
- ② 理想 ↓ □
- ③ 上昇 ↓ □
- ④ 原因 ↓ □
- ⑤ 温暖 ↓ □
- ⑥ 義務 ↓ □
- ⑦ 短縮 ↓ □
- ⑧ 支出 ↓ □

言語 6 言葉の単位・文の組み立て・単語の分類

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 洞察力が鋭い。
- ② 父と将棋を指す。
- ③ 華やかな衣装。
- ④ 妄想にふける。
- ⑤ 友人を擁護する。
- ⑥ 沼にすむ生き物。
- ⑦ 風貌が変化する。
- ⑧ 注意を喚起する。
- ⑨ 頻繁に引越す。
- ⑩ 鉢植えのぼら。
- ⑪ 軽やかな足取り。
- ⑫ その地域の風俗。
- ⑬ 準備に万全を期す。
- ⑭ 自転車で疾走する。
- ⑮ 僅差で優勝する。
- ⑯ 眉毛を整える。
- ⑰ 暗礁に乗り上げる。
- ⑱ 青春を犠牲にする。
- ⑲ 搭乗時刻に間に合う。
- ⑳ 畏敬の念を抱く。
- ㉑ 熊がトウミンする。
- ㉒ その場からニゲル。
- ㉓ イダイな人物。
- ㉔ 光がクツセツする。
- ㉕ ソボクな菓子。
- ㉖ 機嫌をソコネル。
- ㉗ 早起きをチカウ。
- ㉘ 手品をヒロウする。
- ㉙ スイセン状を書く。
- ㉚ 体をキタエル。

1 文節 次の各文を、例にならって文節に分けなさい。

例 図書館で／本を／借りる。

- ① 公園の遊具で遊ぶ子供を眺める。
- ② わからないうことを先生にきいてみる。

2 単語 次の各文を、例にならって単語に分けなさい。

例 図書館／て／本／を／借りる。

- ① 手を上げて横断歩道を渡る。
- ② この花は他の花より鮮やかだ。

3 文節と文節の関係 次の——線の文節と文節の関係を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 一日で本を読んでしまう。
- ② 両者には深い関わりがある。
- ③ 耳の長い犬を飼う。
- ④ サッカーも野球も得意だ。

- ア 主語・述語の関係
- イ 修飾・被修飾の関係
- ウ 並立の関係
- エ 補助の関係

①  ②  ③  ④

4 単語の分類 次の文中から、付属語で活用しないもの一つを選び、記号で答えなさい。

ア もつと イ大きな声で ウ話せるように エなり オたい。

ヒント

3 修飾・被修飾の関係：「何を—どうする」「どのような—何」などを表す関係。並立の関係：文節と文節が対等に並ぶ関係。補助の関係：下の文節が上の文節に補助的な意味を付け加えている関係。

言語

7

自立語

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 健康が肝心だ。
- ② 出かける支度をする。
- ③ 天井が高い。
- ④ かぼちやを煮る。
- ⑤ 民の声を聞く。
- ⑥ 石碑を建てる。
- ⑦ 人生の伴侶。
- ⑧ 魚が跳ねる。
- ⑨ 黄葉した山々。
- ⑩ 荒唐無稽な考え。
- ⑪ 自分の非を謝る。
- ⑫ 長寿を願う。
- ⑬ 橋の欄干を握る。
- ⑭ 日本海沖の島。
- ⑮ 助けを乞う。
- ⑯ 失敗に懲りる。
- ⑰ 六世紀の古墳。
- ⑱ 犠牲を払う。
- ⑲ 原材料は麦芽だ。
- ⑳ 一点を凝視する。
- ㉑ スイソウ楽部。
- ㉒ 風邪のシヨウジヨウ。
- ㉓ 命令をキヨヒする。
- ㉔ クウキョな心。
- ㉕ ジョコウ運転。
- ㉖ 鮮やかなシキサイ。
- ㉗ 一等賞をネラウ。
- ㉘ なごやかなフナイキ。
- ㉙ オクビヨウな猫。
- ㉚ ジンソクに行動する。

ヒント

①自立語：自立語とは、単独で文節を作ることができる単語。一文節に必ず一つある。③副詞：副詞とは、主に用言を修飾する単語。連体詞：連体詞とは、体言だけを修飾する単語。

① 自立語 次の——線部から自立語をすべて選び、記号で答えなさい。  
好き嫌いの多い弟は、食事のたびに母に注意される。

② 品詞 次の——線部の品詞名を、漢字で書きなさい。

- ① 外から帰ったら手を洗う。
- ② あらゆる方法を試してみる。
- ③ やはり雪が降った。
- ④ さて、本題に入ろう。
- ⑤ いいえ、そうではありません。

③ 副詞・連体詞 次の文の副詞に——線を付け、連体詞に——線を付けなさい。

- ① 今朝から おなが 少し 痛い。
- ② ある 作家が 新聞に 小説を 連載する。
- ③ 道端に たいへん 大きい 岩が ある。
- ④ 小さな 傷なので、ほとんど 目立たない。

言語

8

用言

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 新しい門出を祝う。
- ② 封建的な制度。
- ③ 心が躍る。
- ④ 擦過傷が治る。
- ⑤ ピンチを脱出する。
- ⑥ 材料が調う。
- ⑦ 教壇に立つ。
- ⑧ 崖つぶちに立つ。
- ⑨ 山での事故を危ぶむ。
- ⑩ 盆地に住む。
- ⑪ 草木がおい茂る。
- ⑫ あの作家は寡作だ。
- ⑬ ボールを自在に操る。
- ⑭ あの人は篤志家だ。
- ⑮ 俊敏に動き回る。
- ⑯ 人垣ができる。
- ⑰ 草餅を食べる。
- ⑱ 隙間を埋める。
- ⑲ 濃霧が発生する。
- ⑳ 善男善女が参拝する。
- ㉑ 声を荒げてオコル。
- ㉒ アワイ思い出。
- ㉓ エンカツに進む。
- ㉔ 時間がオシイ。
- ㉕ 目標にトウツツする。
- ㉖ ドアに手をはサム。
- ㉗ 鉄のクサリ。
- ㉘ ボウギョの姿勢。
- ㉙ 空をタダヨウ雲。
- ㉚ 旅館のテイシユ。

1 動詞 次の——線部の動詞の活用の種類と活用形を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 降りるときは教えてください。
- ② 友達が時間どおりに来た。
- ③ 山を越えれば日本海が見える。
- ④ 飛行機で東京へ行く。
- ⑤ 言われたとおりにしる。
- ⑥ 弟がまだ家に帰らない。

- ア 五段活用
- イ 上一段活用
- ウ 下一段活用
- エ カ行変格活用
- オ サ行変格活用
- カ 未然形
- キ 連用形
- ク 終止形
- ケ 連体形
- コ 仮定形
- サ 命令形

2 形容詞 次の——線部の形容詞の活用形を書きなさい。

① 今頃雪が降るのは珍しかった。

④	□	□	□	□	□
①	□	□	□	□	□
⑤	□	□	□	□	□
②	□	□	□	□	□
⑥	□	□	□	□	□
③	□	□	□	□	□

② もう少し安ければ買ったのに。

① 廊下では静かにしなさい。

② のどかな光景を眺める。

3 形容動詞 次の——線部の形容動詞の活用形を書きなさい。

**ヒント**

1 動詞：動詞の活用の種類は、「ナイ」を付けて未然形にして見分ける。例 「書かナイ」「ナイ」の直前がア段なので五段活用・「見ナイ」（イ段なので上一段活用）・「答えナイ」（エ段なので下一段活用）

弊社サンプルをご覧いただき、  
ありがとうございました。



# 紙面サンプルは ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、  
全ページ見本\*と目次をご覧いただけます。

※一部教材を除く

会員登録はこちら



## Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

文理の教材紹介



デジタルサービスや  
テストのお申込み



教育情報の発信



オンラインセミナー  
のお知らせ

